

「小さな世界都市・豊岡」を実現する



豊岡市長 中貝宗治

新しい豊岡市政が船出をしました。合併して8年、何よりもまず、私たちが絶えず脅かしている大きな四つの危機に対処し、備えを強化する取り組みを進めてきました。しかし、いまだ道半ばであり、危機はむしろ高まりながら近づいています。

同時に、人口規模は小さくても、世界中の人々に尊敬され、尊重されるまち「小さな世界都市」の実現を目指し、市民の皆様と力を合わせて、さまざまな努力を重ねてきました。豊岡は、コウノトリの野生復帰を通じて世界の中で輝き始め、さらに山陰海岸ジオパークの世界認定、円山川下流域と周辺水田のラムサール条約登録などによって、着実に「小さな世界都市」への歩みを進めてきました。

これまでの歩みをしっかりと見つめ直し、再び前を向いて、未来へと続く果てしない

道のりを力強く、一歩ずつ、一歩ずつ、進めていきたいと思えます。

四つの危機に立ち向かう

一つ目は、災害の危機です。治水対策は着実に進みつつありますが、人間の努力を超える自然の脅威は、必ずやってきます。また、堤防が高くなり、強化されることは、逆にひとたび決壊した場合は、被害が更に大きくなる可能性を持っています。

大正14年の北但大震災のような地震災害に対する備えもしっかりやっていかなければなりません。自助、共助、公助の組合せで、市全体の災害対応能力を高めていきます。二つ目は、地域経済衰退の危機です。

人口減少によって市の経済は右肩下がりとなくなっています。下方への圧力が今後更に

強まります。環境都市「豊岡エコバレー」と大交流の実現を柱に、経済成長戦略を更に進めていきます。

三つ目は、財政悪化の危機です。

平成28年度以降、合併特例は徐々に減らされ、平成32年度をもって完全になくなります。その間、市の財政は、歳入面で、急傾斜地を転がるような事態が予測されます。備えをしっかりと進めます。

四つ目は、コミュニティ崩壊の危機です。

過疎・少子・高齢化が進み、集落の崩壊が始まっています。健康政策をしっかりと進める一方、小学校区単位でのコミュニティの強化を目指し、新しいコミュニティのあり方を探っていきます。

「小さな世界都市」を

実現する

豊岡には困難な課題が横たわっている半面、大きな希望と目標があります。

「小さな世界都市」の実現に向けて、「いのちへの共感」と「歩いて暮らす」をまちづくりの根底に据えながら、次の五つの柱を同時に進めてまいります。

一、受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐまちづくりを進める

地域固有の自然、固有の歴史、固有の伝統、固有の文化に根ざしたまちづくりを、これまで以上に進めていきます。日本中が受け継いできた自然を壊し、歴史や伝統を捨て去り、古い街並みを壊し、同じ顔をした粗雑でつまらないまちをつくってきました。顔が同じなら、体が大きい方が勝つに決まっています。私たちは、資本力の大きい都市に勝つことはできません。

豊岡は、独自の道を進む必要があります。受け継いできたものを守り、育て、新しい工夫を加えて、次へと引き渡していくまちづくりを決然と選んでいきたいと思えます。

二、環境都市「豊岡」

エコバレーを実現する

コウノトリの野生復帰をシンボルとした豊岡のまちづくりは、国内外を問わず多くの方から高い評価を受けています。環境行動は、長く続け、そして仲間を増やしていかないと結果を出すことはできません。そのためには、経済によって裏打ちされるのが最も有効であり、経済を元気にしなければなりません。

その有力な分野が「環境」だと思います。豊岡が環境破壊によつてではなく、まさに環境を良くすることによって、経済の活性化を成り立たせているまちになることができます。誇りに思うことができます。誇りはまちづくりのエネルギーになり、豊岡は文字通りの「環境都市」として持続的に輝くことができます。

三、「小さな世界都市」市民を育てる

「小さな世界都市」をいざれ支える子どもたちに、こうあってほしいと願っています。

①豊岡のことをよく知っている

②だから豊岡が大好きだ

③だから豊岡の一員としての役割をちゃんと果たす

こんなふうには深く地域に根ざしながら、

④想像の翼、空想の翼、意識の翼、行動の翼は世界へ羽ばたいている

そのような子どもを育てていきたいと思えます。そして実は、豊岡の中に「世界」がある。そのことが大切です。

四、情報発信戦略を展開する

知らなければ存在しないのと一緒です。もちろん、私たち個々人は、人に知られようと知られまいと存在するだけで価値があります。

しかし、私たちは、豊岡にたくさんの人に来ていただきたい、まちを元気にしたいと思っています。知らなければ、行き先としても選択肢にすら入りません。

豊岡の持つ多様な魅力をさまざまな形を通じて発信し、大交流を進めます。

五、交流基盤の整備を促進する

人々に豊岡に来ていただく

ための道路、鉄道、空路などの交通基盤を整える必要があります。これは豊岡だけの力ではできません。近隣市町と協力し、国や県に積極的に働き掛けていきます。

歩みを加速する

豊岡は今、輝きを増し、突き抜けかけている、という実感をもっています。

市民の皆様と泣き笑いを共にしながら力を合わせ、果敢に、大胆に、危機に立ち向かいつつ、その歩みを加速させていきたいと思えます。

併せて、高い自治の気概と優れた自治能力を持つまち、歩いて暮らす健康なまち、いのちへの共感に満ちたまちを創造してまいります。

また、スリムで、意欲に溢れ、生産性の高い行政組織を育ててまいります。

未来への責任を果たすため、市民の皆様とともに手を携え、「小さな世界都市」を実現します。

(背景写真：神鍋高原「釜淵」)